



OKAYAMA Y'S MEN

NO.6





THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS

REGION ワイズメンズクラブ国際協会西日本区
JAPAN WEST



CONTENTS

PAGE 3-4

私とYMCA

今月は高原さんがご寄稿くださいました。

PAGE 5-16

瀬戸山陰部会(11月例会)報告

ユースアクションとともにいった瀬戸山陰部会の報告です。

PAGE 17-19

YMCAニュース

能登支援活動の報告です。

PAGE 20

のぶちゃんの聖書のお話

YMCAせとうちの協力牧師である延藤好英さんのエッセイ。第4回は「一元に生きる」です。

私とYMCA 高原良子さん

出会いは 36年前 1988年のようです。(古い写真やカードによると)息子の幼稚園のママ友の誘いで YMCAのデイキャンプを知りました。「大学生が、いろいろ遊んでくれるんよ」「ものすごく子どもが喜ぶんよ」仕事が忙しく、遊びに連れていくことがなかったので「助かる!!!」と思い、参加させたのが最初でした。

小学校・幼稚園以外で 親と離れて一日過ごさせたことがなかったので 少し不安な気持ちがあった事を覚えています。YMCAの隣の公園に集まり、小グループに分かれ担当のリーダーが子どもたちに優しく声をかけてくれました。何度か参加させて頂いて、いつも子どもたちがいい笑顔帰ってきて解散後もリーダーと離れたくない様子を主人と「すごいよな～」と感激して見ていました。

学生時代 何も考えず寮の皆と遊んで休日を過ごしていた自分を思い出すと 自分の休日の時間を子どもに捧げてくれる姿に感謝しかありません。そして、今も その流れを汲んだ素晴らしいリーダー達の姿があります。



子どもたちがあの笑顔で帰れるのは、YMCAの職員の方々の指導・リーダー研修会・忙しい授業の合間を縫っての準備・ミーティングの上に成り立っていることをワイズに入って知りました。でも、何より感じるのは 時を経て繋がっている岡山(せとうち)のリーダー魂です。YMCAの多くの活動では兄弟でもない大人でもない斜めの関係の大学生や、他の学校の友達との出会いがあります。これは子どもたちにとっては貴重な体験となります。逆に大学生にとっては 多くの実体験が出来ます。きっと中では 色々な軋轢も生まれたりするとは思いますが、たぶん すべてはあの子供たちの笑顔が救ってくれるのではと思います。

数十年たって、ワイズという立ち位置で、またYMCAとの関わりが持て、リーダー達と活動できる機会が与えられました。少しでも「みつかる・つながる・よくなっていく」を一緒に体験できればと思っています。

*私の宝物：キャンプが終わるたびに一人一人に頂いた修了書には、
普段と違う息子の姿が見えました。
閉所となる余島キャンプも写真もあります。
今でも 息子たちの良い思い出として残ってます。



ウィズメンズクラブ国際協会
瀬戸山陰部 岡山クラブ

フィードバックレビュー

瀬戸山陰部部会 実施レポート概要

2024年11月22日



CONTENTS

01	イントロダクション	1
02	プログラムの概要	2
03	参加者のフィードバック	3
04	プログラムの強み	4
05	アンケート結果	5
06	課題の特定	6
07	改善の提案	7
08	改善策の検討	8
09	改善策の実行計画	9
10	最後に	10

01 イントロダクション

この部会の目的は、ワイズメンズクラブとは何のために存在するのかを今一度見つめ直すことでした。そのために参考としたのはStrategy 2032です。この世界的な方向性に倣い、岡山ワイズメンズクラブは、YMCAせとうちと共に瀬戸山陰の地域社会に対して圧倒的に影響力のある組織となることをめざしてします。

そのような理解のもとで、今回わたしたちはYMCAの至宝であるユースリーダーが企画立案したユースアクションとジョイントして部会を行うこととしました。ワイズとユースが岡山の街の重要課題である「落書き消去」を一斉に行い、共に汗を流すことで、共感を広げ、今後も共に活動の両輪となって地域の「よくなっていく」を推進するスタートラインに立つことを願います。



02 プログラム(落書き消去)の概要

このプログラムは、ワイズとユースが共同作業を行い、共に汗を流すことで「共感の輪」を広げていくことを目指していました。

目的

ワイズとユースは、YMCA運動の有力な担い手会員です。ところが日常的に一緒に活動する場面が少なく、お互いの実態を十分には把握できていません。今回ユースが自主的に企画した落書き消去活動を通して、このギャップを埋めたいと願っています。

参加者の紹介

ワイズ：岡山クラブを含む瀬戸山陰部会員と西日本区役員 60人

ユース：YMCAせとうちのユースリーダー60人中の30人

プログラムの期間と内容の概要

とき

2024年7月16日から11月15日までの4ヶ月間

内容

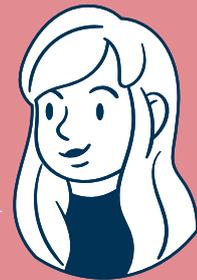
- 街の落書きと治安の悪化の関係についての学び（7月例会）
- 中心市街地落書き調査ならびにマップづくり
- 消去対象該当物件所有者の特定と許可取り
- 資材リスト作成ならびに物資手配
- 消去活動リーダーの役割分担と当日消去作業、後片付け

03 参加者のフィードバック

参加者からのフィードバックを集計した結果、以下のような要点が挙げられました。

ユースの声

ワイズの方々とお話をしながら一緒に活動ができてとても楽しかったです。明るく接して下さったり私たちの活動を応援してくださりととても嬉しかったです。綺麗になった壁を見るととても達成感がありました。今回で終わらせずに、これからもこのような活動を続けて周りに伝え続けていきたいです。



今回の活動をすることで、今までは気にしていなかった落書きに関心を持つきっかけになった。また、落書き消去活動を実際にやってみて、思った以上にたくさんの道具や事前の準備が必要であり、様々な人の協力のおかげでできる活動だと分かった。この活動を実際に体験したみんなが周りの人にも伝えて行くことで、落書き消去活動が広まっていけばいいと思う。

ワイズの声

学生リーダーがいると、年齢層がバランスいい組織に思える。という事は通常時はやはり年齢層が高いように思える。20代、30代の新会員でも入会しやすい雰囲気が必要と感じました。



本日出会ったユースリーダーの活躍する姿を見て、子どもたちの良きモデルとなっているのだと感じたので、次世代に希望の光を見せていただきました。次はさらにワイズが頑張らないといけないと強く思いました。ありがとうございました。

感動しました、とっても感動しました。心がジーンと熱くなりました。リーダーたちの歌声、笑顔、キラキラした目「世にあって 星のように輝く」、夜空に美しく輝く星を見ているようでした。私に素直な心を与えてくれました。渾沌とした現今の将来に「大丈夫！」だと安心と希望が持てました。



04 プログラムの強み

プログラムの強みや良い点のハイライトです。

1. 実践的な学びと実施に至るまでの経験の積み重ね

岡崎調査隊隊長によるレクチャーを受講した後、自分たちで実地調査を行うことにより、リアルな形の岡山中心市街地の様子を学ぶ事ができた。また、独善的に成らないためにも、当事者の方々の声を聴かせていただき、「消させていただく」という姿勢の大切さを学ぶことができた。

2. 世代間のギャップを乗り越え、理解する

日常的にはあまり接することがないシニアとユースが、グループを形成し、ひとつの目的に向かって共に汗をかくことで、共感の輪が広がり、会話や歌唱を重ねることで、それぞれの存在との出会いを心から楽しむことができた。

3. メンターシップと学習機会の提供

人生経験豊富なワイズの方々と共に活動することで、その存在をメンターとして尊重し、助言やフィードバックを受ける機会が多々あった。また、新しい考え方や価値観に触れる機会が提供されることも多く、結果的にユースの成長を支援することとなった。

4. ネットワーキングの機会の提供

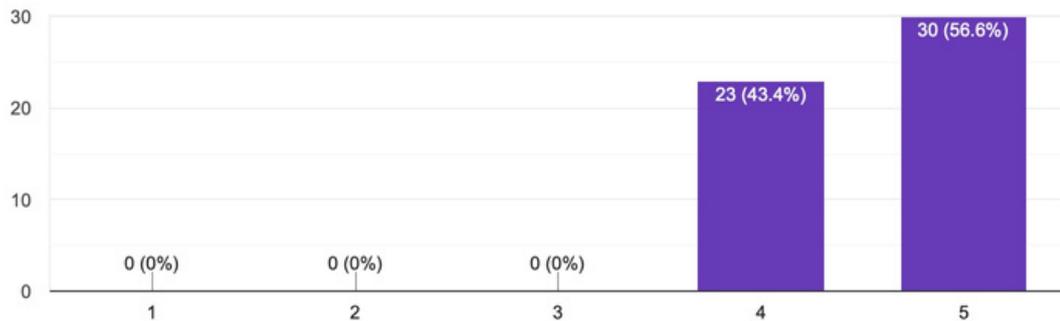
今回は、岡山のワイズメンはもちろんのこと、瀬戸山陰部のみならず、西日本各地からシニアが参加していただけた。結果的に他のYMCAのワイズメンとのつながりを築く良い機会となり、これは、将来のキャリア形成のための重要な契機となる可能性がある。

05 アンケート結果

ユースアクション終了後のアンケート結果です。

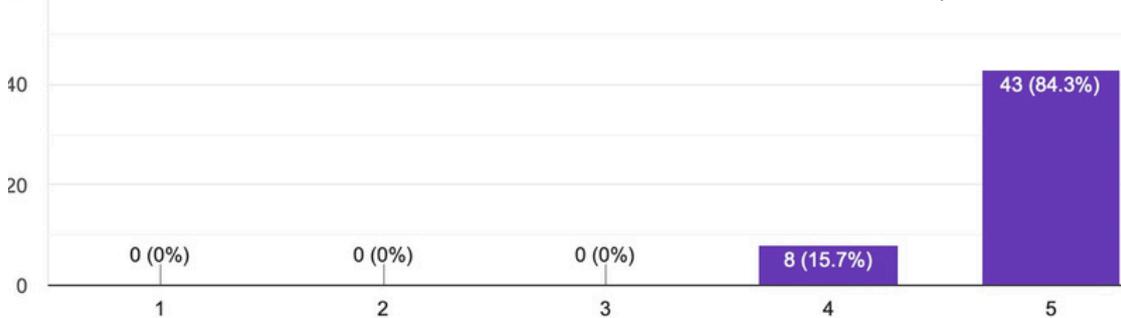
質問 1

部会全体の満足度はいかがでしたか？（平均4.56）



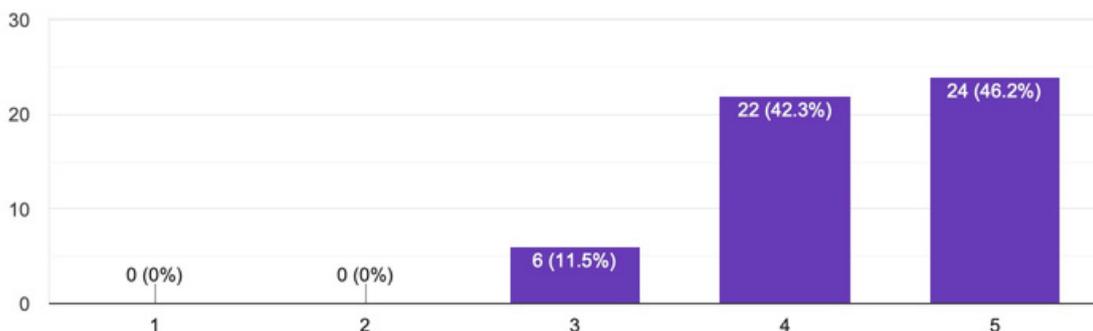
質問 2

落書き消去活動の満足度はいかがでしたか？（平均4.84）



質問 3

礼拝の時間はいかがでしたか？（平均4.34）



06 課題の特定

ワイズ&YMCA協働プログラム改善点抽出レポートです。

1

多様な背景の方々の参加

ユース、ワイズ相互の学びと育ちのためにも多様な背景の参加者が必要である。

2

目標や成果の明確化

YMCAとワイズ、相互のミッションを共有することで、成果が格段に向上する。

3

共汗から共感へ

地域課題に対して具体的行動を取り組むこと（共汗）で、相互の共感度が上がる。

とにかく、参加者の一体感が素晴らしかった。それは基盤となっているYMCAのベースも勿論あつてのことですが、そうはいつでも未経験な作業でドキドキしている大人たちが楽しくスムーズに作業することができ、みんなを笑顔にし、色々な気づきを生み出したのは大成果です。それを実現させたのはひとえに、若い方々の裏方の前段取り作業とリーダーシップがしっかり発揮されたことにあります。多くの方々の見守りのなかで、そういう若手が成長していることこそが希望の光です。人が成長していくことが最も大切だと改めて感じさせてくれた素晴らしい取り組みでした。汗を流した参加者も素晴らしいし、支えた若手ボランティアも更に素晴らしい。最高のプロジェクトでした。



07 改善の提案

参加者からのアンケートを元に、プログラムの改善点や課題を特定し、より良いプログラムの構築に向けた提案をまとめました。



プログラムの中身の向上

今回はアンケートからも明らかのように、プログラムの内容（落書き消去活動）に高い評価をいただきました。

ワイズとユースが一緒に「意義深い何かに取り組む」ことの大切さを再認識するとともに、その質を高めることが重要です。



フィードバックの周知

今回活動の中でフィードバックセッションを持つことのみならず、参加者全員にアンケートをとり、気づきを共有することを目標に掲げましたが、残念ながら回収率70%に留まっています。より効果的なフィードバック方法の導入を考える必要があります。



礼拝実施の意味の確認

礼拝は、その場にいるみなが招かれ、共に聖書の言葉を聴き、自分自身の方向性を整え、それぞれの現場へと派遣される構造となっています。わたしたちの活動の基礎となるものを常に確認し続けるためにも、「瑞々しい」礼拝を捧げるにつけることに意味があります。



フェロウシップとはなにか

「楽しいだけがワイズではない。しかし、楽しくなければワイズではない」という言葉を言い換えると「楽しいだけならfriendshipだが、friendshipだけではワイズではない。ワイズは、friendshipを超えたfellowshipだからこそ楽しいのだ」という理解をすべきです。

08 改善策の検討

部会の品質や効果を向上させるための提案の検討についてです。

1

部会自体の中身の見直し

部会とは「クラブが所属する部単位でメンバーやそのファミリーが一同に会して親睦と研修の場を持つ」機会です。その根本に立ち戻り、今一度その中身を検証する必要があります。

2

絶えざる自己革新の継続

メンバーの祈りに倣い、「変えるべきことを変革し、守るべきことを堅持し、それらを識別する知恵を与えたまえ」を合言葉に、絶えざる自己革新をし続ける必要があります。

3

持続可能な活動運営の再発見

わたしたちは、すでにStrategy2032を手にし、その方向性が示されています。地域社会に対して圧倒的に影響力のある組織となることは、持続可能な組織運営を見出す契機となります。



09 改善策の実行計画

改善策の実行計画や部や部会の目標の共有についての改善策です。

1.改善策の実行計画や責任者の指定

	6月	7月	8月	9月	10月
<u>部会自体の中身の見直し</u> 瀬戸山陰部評議会・西日本区役員会	■				
<u>プログラムカリキュラムの作成</u> 部担当クラブ			■		
<u>持続可能な活動運営の再発見</u> 瀬戸山陰部評議会・西日本区役員会	■				

「ワイズメンズクラブは何のために存在するのか?」、それはすでにStrategy 2032によって示されています。であるならば、各クラブ、各部、そして区は、その目的を達成するために、共にベクトルを合わせていくことが必然です。そのためにも各地域のYMCA、とりわけユースと共に歩み始めることが有益であることが証明されました。ぜひとも、新たな試みに取組んでみてください。

2.ワイズ&YMCA協働プログラムの目標の共有

リーダー達との交流と奉仕活動、奉仕で汗を流した後の聖なる祈りそしてワイズメン同士の懇親の場で心を通わせる三位一体の素晴らしい部会でした。YMCAをサポートするワイズメンズクラブのメンバーであることに誇りを持つことができました。



10 最後に

「落書き落としの作業をするまで、この街にこんなに沢山の落書きがあるということに気づけなかった」という感想を述べられた方がいました。「そうだなあ」と同感しつつ、わたしたちが気づくべきは、落書きだけでなく、落書きをせざるを得ない人たちの存在なのではないかと改めて思われます。落書きを消しながら、わたしたちは「この落書きを書いた人たちの心の傷が癒されるように。自分のことも人のことも大切に思えるようになりますように」と祈りながら作業を進めることができます。そうするとわたしたちの作業は祈りの作業となっていきます。この街とそこに住む人たちの幸せ、また落書きという形にしるこの街と関わる人たちの幸せを祈りつつ行う祈りの作業です。このような営みを通して、わたしたちはポジティブネットのある豊かな社会の創造を続けていきたいと願っています。

今回の部会開催を通じて、ワイズとユースの協働計画の改善に向けた重要な提案やアイデアを共有することができました。最後に、参加者の皆様に心から感謝申し上げます。今後も参加者の皆様の声に耳を傾け、より良い活動を提供するために努めてまいります。引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。ありがとうございました。



と き： 2024年11月12日(火)～15日(金)



太田直宏 (YMCAせとうち代表)



1. 能登支援プロジェクトの概要とYせとうちチーム派遣に至る経過報告

2024年1月1日、あの発災から11ヵ月たった今も、能登には災害の大きな爪痕があります。全国YMCAのつながりの中で、そのような声をたくさん聞いてきました。しかし残念ながら、せとうちそして姫路のYMCAからはなかなか現地派遣をすることができず、申し訳ない気持ちでいっぱいでしたが、今回静岡県御殿場市のYMCA東山荘で行われる「YMCA大会」に参加することを前提に、チームメンバーを選出し、「能登ヘルプでの奉仕者」として派遣することを決めました。

派遣元：岡山キリスト災害支援室(通称：岡キ災)

派遣先：能登地震キリスト災害支援会(通称：能登ヘルプ)

活動先：石川県輪島市 宮下さんの仮設自宅(元は畑の作業所であった場所)

宿泊先：能登聖書教会(石川県鳳珠郡能登町)

派遣日：24年11月12日夕方 岡山出発～11月14日深夜 能登町出発

2. 具体的作業内容(能登ヘルプの元での現地での支援活動報告)

今回の支援チームの移動は、岡山～姫路～内灘～輪島～御殿場～岡山という長丁場で、移動距離すべてを合計すると2000Kmにもなります。そこで今回はキャンピングカーをレンタルし、車中での仮眠もできる体制で現地入りしました。

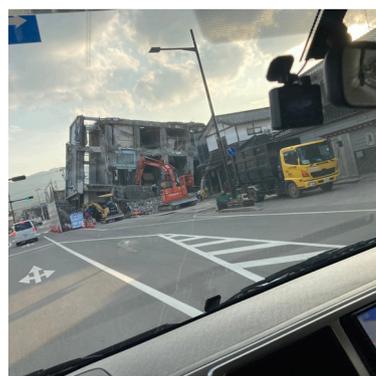
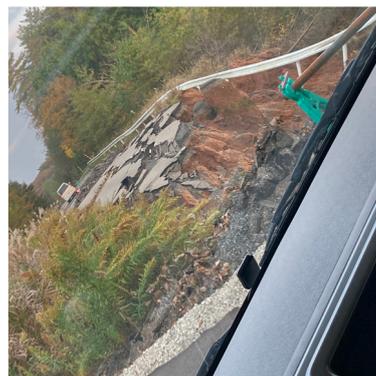
①11月12日：

すべての用意を整え、夕刻に岡山を出発、途中たつの駅で姫路のリーダーをピックアップして夕食。夜通し走り、13日早朝に内灘町に着き、車中で仮眠しました。



②11月13日：

朝8時、内灘聖書教会で行われる能登ヘルプの朝のミーティングに出席。その場で持ち場とチームを紹介され、作業を行っていくうえでの諸注意が共有されました。みなで祈りを合わせたあとは、車に乗って輪島まで移動。半島の先端に向かって進めば進むほど、ダメージの大きさが増していきます。「能登里山海道」というハイウェイなのですが、道がところどころ上下にうねっており、スピードを出すことができません。聞けばこれでも随分回復したとのこと。記憶の糸をたぐれば、あの当時ここここで道路が寸断されていたことが思い出されます。結局2時間（通常は1時間、発災後、5月頃では3時間）かけて作業地に到着しました。輪島市はここここに被災の爪痕が残っています。わたしたちの作業は、地震後自宅が倒壊したので、家族揃って身を寄せていた畑の中の農作業小屋。その暮らしの場を、豪雨災害が直撃し、床上浸水となったとのこと。そこで次回大雨が降ったときに備えて、50メートルの溝を掘り、川へと繋げる作業に取り組みました。



昼食は、近隣にある「輪島聖書教会」の礼拝堂で食しました。われわれ以外にも2つのチームが休憩を取りに集まっていましたが、シンガポールの方や、ニュージーランドの方もおられ、実に国際色豊か。こんなにも多くの国々から被災地を「ヘルプ」しに来てくださっていることに感動するとともに、とても仲良くなることもできました。



午後も同様の作業を進めた後、終了後は輪島の朝市跡を訪問させていただきました。発災後の焼け野原状態ではないものの、そこには広大な空き地が広がっていました。グーグルマップを使って以前の状態を確認しましたが、差は歴然としていました。人と建物と暮らしがごっそりと削り取られている。11ヶ月経ってもこんな状況であることに恐れを抱きました。これはわたしたちの街の近未来かもしれないのです。やりきれない思いを抱えて、宿泊地である能登聖書教会へと移動しました。

②11月14日：

起床後朝のミーティング。教会の会堂守りの鳥井さんから今晚手料理の手巻き寿司を振る舞ってくださるとの提案があり、一同大喜び。1時間かけて車で昨日と同様の作業地に移動しました。昨日は気づかなかった亀裂やがけ崩れ、倒壊したお家などなど。滞在すればするほど、ダメージの大きさが伝わってきました。宮下さんの言葉を胸に抱きながら、14日中の側溝の完成を思い描いて、みなで力を合わせたお陰で、予想以上に作業がはかどりました。結果としては、溝の完成のみならず、作業小屋に残っていた汚泥の泥掻きもすべて終了させることができました。作業終了後、宮下さんからはみなに輪島塗のお箸のプレゼント。「これを見て、輪島を忘れず、思い出してください」との言葉が胸に残っています。心からのおもてなし料理をいただきながら、「きっとまた来ます」と心に誓いました。



太田直宏 (QSAN)

関西学院大学卒業後、コンピュータ会社に勤務するも、どうしても企業の論理に馴染めず、1年半で退職。偶然にも手に取ったチラシに書かれた「フィリピンに行って井戸を掘ろう」という文言に惹かれてクリスマスワークキャンプに参加。最後に宿泊したマニラのホテルがYMCAであった。帰国後これまた偶然見かけた新聞広告で神戸YMCAに入職後、クリスチャンとなる。岡山に出向中に阪神淡路大震災が起り、そのことを契機に移籍、2005年より代表理事となり、現在に至る。「たかがキャンプ、されどキャンプ、時にキャンプは人の人生を変えることもある。」と信じて、様々なキャンプを実践し続けている。

のぶちゃんの「聖書のおはなし」

第4回 「3つの関係の中で」



「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。」

(ヨハネによる福音書3章16節a)

こんにちは。元気でお過ごしでしょうか。のぶちゃんの「聖書のおはなし」の4回目になりました。今回は「最も重要な掟」のお話でした。マタイによる福音書22章37～39節から、神さまを愛することと隣人を愛することが大切なんだということが書いてありました。だけど、神さまを愛するのと隣人を愛するのとは、同じ「愛する」だけど、その内容が異なりますよ、というお話をしました。実は「隣人を愛する」という教えの中に、もう一つの愛する対象が隠されていました。

それは「自分のように」という言葉です。イエスさまは聖書の別のところで次のようにおっしゃっています。「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である」(マタイによる福音書7章12節)。自分の感覚って大切なんですね。「相手の身になって考える」「人にされたくないことは自分も人にしない」という教えともつながっていますね。

わたしたちは三つの関係の中で生活していると言えます。①神さまとの関係(縦の関係)。②人や自然との関係(横の関係)。③自分との関係(縦と横が交わる軸)。そんな十字架が見えてきます。そんなわたしたちの生活の鍵になるのは③の自分との関係です。わたしたちは自分のことを知っているようで実はあまりよく知りません。容姿、学歴、職歴、収入、能力、人の評価、経済力、財産などなど、いろいろなものをもってわたしたちは自分のことを知ろうとします。けれどもそれらはすべて数えられるもの、変わっていくもの、一夜にして消え去る可能性のあるものです。ですから当てになりません。プライドはある。バカにされたくない。けれども自信はない。なんかそんなもやもやした状態で暮らしているのではないのでしょうか。

今日の聖書の箇所は「福音の中の福音」とも呼ばれている聖書の中心的なメッセージです。「世を愛された」のところに自分の名前を入れて「〇〇を愛された」と言ってみましょう、とよく勧められます。クリスマスはサンタクロースの誕生を祝う日ではなく、イエス・キリストの誕生を祝う日です。神さまのあなたへの変わらない、無条件の愛をあなたに伝えるためにイエス・キリストはこの世に来られたのです。この神さまの視点で自分を愛おしく思うこと。他の人と比べてどうこうというのではなく、神さまの目に尊いあなた。それが自分と自分との関係(縦と横の交わる軸)を確かなものにするのです。そのあなたが神さまをあがめ(縦の関係)、隣人を愛する(横の関係)者とへ変えられていくのです。

神さまに愛されている平安があなたの出発点であり帰る家でありますように。



1月18-19日

集合18日(土) 14:00 現地
解散19日(日) 13:00 現地

会場：倉敷市自然の家 宿泊プログラム

ワイズメンズクラブ & YMCA 合同企画 YYYフォーラム 森は海の恋人、私と森の良い関係づくり ～倉敷市自然の家 森の保全活動体験活動

特別ゲスト：能登の輪島市から柴田さんをお招きします。



対象：ワイズメンとその家族、YMCA会員、ユースリーダー、リーダーOP、その他
参加費：7000円(1泊2日の宿泊費・食費)
内容：瀬戸山陰部YYYフォーラム
送迎：基本的に現地集合解散です。

1月18日(土曜日)

14:00 集合、開会礼拝
15:00 ミニレクチャー 森と私たちの良い関係
15:30 森の手入れのワークショップ
18:00 自由時間
20:00 夕食・新年会(鍋パーティー)
チャリティーオークション*輪島漆器あり
22:00 お風呂タイム、就寝

1月19日(日曜日)

7:00 朝食、おそうじ
9:00 日曜礼拝
10:00 メンバー&リーダーと交流
12:00 昼食
13:00 終了・解散



林野庁近畿中国森林管理局岡山森林管理署
森林インストラクター
岡山県シェアリングネイチャー協会 会員

樹木医

梶原 利廣

海と森は、密接な関係にあります。落ち葉や枯れ木は、虫や微生物によって分解され、養分をたくさん含んだ「腐葉土」と呼ばれる土になります。雨や雪解け水は、この腐葉土に染み込み、長い時間をかけて流れ出します。腐葉土に含まれるリンや窒素などの養分も一緒に溶け出します。養分を含んだ森の水は、川となって、海に流れます。森から海に運ばれた養分は、海中の植物プランクトンを育み、貝や魚などが生息する豊かな海を作ります。そうです。森は海の恋人なのです。



お問い合わせは、こちら どなたでも参加可能です。



086-223-1509



<https://setohime-ymca.org>

YMCA

みつかる。
つながる。
よくなっていく。



ワイズメンズクラブ国際協会

第28回
西日本区大会

Y'S SLOGANS

岡山クラブ 会長 石原康正

○YMCAと共に楽しくワイズ活動! Let's enjoy Y's Lives with YMCA.

瀬戸山陰部 部長 長壽和子(岡山クラブ)

○チーム瀬戸山陰 どうなるか?ではなく、どうするかを考えよう。

~さあ、動こう! 自働・共働 ~

Let us not just worry about the future, but think about what we should do.

~Let's take action together with our friends in the Seto-San'in region!

西日本区 理事 鶴丹谷剛(神戸クラブ)

○つなげよう地域と世界、YMCAと共に Connecting Local to the World with YMCA

○楽しもうフェロウシップをポジティブに Enjoy positively our fellowship

アジア太平洋地域 会長 Joan Wong

○大きなインパクトを起こそう

Make a Great Impact

○大胆に、信念をもって奉仕しよう

Be Bold and Serve by Faith

国際協会 会長 Charming Shen

○太陽の輝きと笑顔

Sunshine and Smile

○簡潔さは美

Simple is Beauty

2025

6.14 sat.

SMILE. IMPACT. CONNECT.

■ 会場 ANA クラウンプラザホテル神戸

ホストクラブ: 神戸クラブ・西宮クラブ・神戸西クラブ・神戸ポートクラブ・宝塚クラブ・神戸学園都市クラブ・芦屋クラブ